

Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

292



Contents

- 書庫あれこれ…山本幸正●1
- Parlando Interview 美的な音楽空間を共有する
阪上正巳先生 きき手・河田篤子…●2
- 生誕100年／没後20年 柴田南雄さん…小関康幸●6
- 資料の館㊸ Bravo! ゲームミュージック! …二塚恵里●7
- 雑誌の部屋㊹…●8
- 館長室へようこそ㊺ 自分の価値観は絶対か? …古川聡●9
- 図書館のう・ご・き 耐震改修工事報告㊻…●9
- 図書/CD…松平珠美・丸谷徹●10
- Information…●12

書庫あれこれ

山本 幸正

私は日本民俗音楽学会の事務局をしており、研究室の一角に、その学会の機関誌『民俗音楽研究』や会報、大会プログラムのバックナンバー等を保管している。いわば学会の書庫になっている形である。この学会では、全国の図書館等に前述の学会誌を寄贈しているが、2012年のリストを見ると、まず国立歴史民俗博物館、そして二番目に国立音楽大学附属図書館、三番目に東京芸術大学図書館、以下、東京芸術大学音楽研究センター、武蔵野音楽大学図書館、国立民族学博物館図書室、国立国会図書館、音楽文献目録委員会と続く。全五十一機関の二番目に我が図書館がリストアップされている。「歴博」がリストの一番であるのは、学会の創立者の一人、小島美子先生がその教授だったからであろうが、国音の図書館が二番目であるのには驚くとも納得もする。国音の図書館がそれほどの図書館であるということだろう。

さて、大学院生になれば図書館の書庫に入ることができ、自分の院生の時にも大学図書館の書庫内のデスクで勉強したことがあった。残念ながら、国音の図書館の書庫には、改修前に一度おじゃましたきりである。その時に、図書館職員の方から、驚愕するような貴重書を見せただけ、至福の時間を過ごさせていだいた。

大学院の授業で何かの英文の論読をしていて、私の担当箇所「Sadayakko」という固有名詞があり、教授から調べてくるように言われ、初めて国会図書館まで閲覧しに行った。当時はカードによる検索で、『川上音二郎貞奴漫遊記』を請求、受け取った本は、糸で括られた和装の本であり、それだけでわくわくした。そのコピーを取り、

授業で報告して、教授から褒められたことを思い出す。そのような、学生に自力で文献を探させ「よくそんな本を見つけたね」と褒めることを、今は自分がしている。

大学三年の時に、交通地理学の教授の引越しをお手伝いした。当時私は鉄道研究部の部長で、その教授青木栄一先生は顧問であった。西荻窪のマンションで本を段ボール箱に詰め、小金井の大学の正門前の新築のお宅の地下書庫に運び込んだ。その書庫は、天井まである書架がレールの上に乗っていて、前後に移動するものであり、目的の本がある書架のところだけスペースができるようになっていた。「この書庫を作るのに、一千万円余計にかかったよ、わっはっは」と嬉しそうに話されていた。いつか私も地下書庫のある家を建てたい、と思ったものだ。

今年の五月、成城のとある邸宅の書庫に伺った。経緯は、山形県で中学校長をしている友人から電話があり、真篠将^{まさむね}という方の蔵書を整理するらしいが、自分は遠いしあまり興味ないので、まず思い浮かんだのが山本君、ということであった。真篠氏は山形県のご出身、戦後の文部省教科書調査官として活躍された方である。昨年九十九歳で逝去され、夥しい蔵書をご親族はどなたも引き取れないという。お嬢様のご案内で書庫に事前調査に行ったのが三月。書籍の山から何を頂戴したらいいのか、途方に暮れてしまった。お嬢様からの再三のご連絡に、五月に伺うと答え、車で向かった。戦前・戦後の音楽教科書や雑誌、書籍を頂戴した。貴重な資料として大切に保管するとともに、私が退職する時にはしかるべきところに寄贈する使命を感じている。

美的な音楽空間を共有する

阪上 正巳 先生

(さかうえ・まさみ)

1958年生まれ。1983年金沢大学医学部卒業。国立武蔵療養所研修医を経て自治医科大学精神医学教室(宮本忠雄教授)に入局。1989-1990年ウィーン大学医学部精神医学教室に留学。同時にウィーン音楽演劇大学音楽療法科聴講生として学ぶ。国立精神・神経センター武蔵病院院長を経て現在、国立音楽大学教授。医学博士、精神保健指定医、日本精神神経学会・精神科専門医。日本芸術療法学会理事、日本病跡学会理事、日本音楽療法学会評議員。



音楽療法の分野は多岐にわたる対象者も多いのですが、精神を深く病む方たちへの思いが深い先生。音楽が本当に必要なのはそういう方たちの方です。

音楽との出会い

——まず、先生の小さい時から医学を目指された頃までを伺えればと。お生まれは？

阪上 埼玉の本庄です。ほぼ群馬に近い所、赤城山の麓で上州名物「空っ風の吹きすさぶ街です。

音楽との出会いは、小学校の五年生頃。これ、はつきり覚えていないんですよ。たまたま家に人がいないことがあつたんです。普段は大家族で賑やかなものですから、その時に寂しくなっちゃってね。そういう訳か、音楽を聴こうと思つたんですね。《運命》という曲があるのは知っていました。ジャジャジャジャーン”は子供でも知っていましたけど、今でも覚えてるのは、第二楽章のある箇所、この話は時々学生にして、その部分をYoutubeで聴かせたりもしますが、次第に音が集まって、勢いよく一気にサーッと流れてくるような部分があるんですよ。その時に、二階の窓から空が見えて、その音楽がサーッと来る時に、風

と一緒にザァッと入ってきたんです。それで「うわつ、何これ！」と思つて、幼心に感動したんでしょうね。それから音楽を聴き始めたんです。《田園》を聴き、《英雄》を聴き、七番を聴き。もちろん《第九》もと、だんだん広まっていつて。

——劇的な出会いですね。

阪上 その時のことは本当に今でも覚えています。音楽療法の授業で、自分にとって印象的だった音楽体験を振り返つて発表させるというのがあったんです。音楽の履歴書(ミュージック・バイオグラフィ)といいますが、自分でも作つてみたことがあるんです。そうしたらやつぱりそれが最初に出会えました。

——ご自分で、習おうと思いませんでしたか。

阪上 それが今でも後悔しているのは、母親が「ピアノ習う？」つて僕に聞いたことがあるんですよ。その時に僕は何を勘違いしたのか、「そんなのは女がやるもんだ」と断つた覚えがあるんです。あれ、断わらなければよかったなと、今だに思っていますね。

——では、中学へ行ったら。

阪上 音楽にますますのめり込みました。次に好きになったのはブラームスで、シンフォニーを夢中

で聴いたものです。更にはマラーでした。マラーには本当にハマりましたね。『音楽現代』だったか、マラーの交響曲を一曲ずつ解説している特集があったんですよ。あれを本当に一晩のうちにパーッと読んで、それでも全部聴きたくなって、それも順番で聴いていつて。マラーには本当に興奮しました。特に《大地の歌》が大好きで、これは何回聴いたか分からない。中学の時にフルートを始め高校の時も一応ブラスバンドに入っていたんです。ただフルートが余りうまくなかったので、「おまえは指揮をやれ」と言われて指揮をやったりしましたけれど。

音楽療法との出会い

——医学部に進学されたのは。

阪上 従兄が脳外科の医師をやっています。音楽好きでレコードをくれたりして、かなり影響が強かった。あとは叔父が消化器外科だったんです。この二人が医者だったことと、あとは小さい頃病弱だったこともあって、医者になるのかなど。浪人が嫌だったから、勉強は相当やりました。音楽を聴く以外は勉強してましたね。

——「専門はどのよう」

阪上 最終的に精神科に決めたの

ですが、脳外科と精神科で迷ったんです。どっちにしても脳だったんですかね。脳外科の場合は非常にクリアカットで、治療結果ははっきり出ますよね。一方、人間の精神というのは訳が分からない。クリアカットなほうか、訳の分からないほうか、最後の最後まで迷って。実は東京医科大学の脳外科に入学を決めたんです。でも決まったとたんに気が変わって…。

——脳外科から精神科に変更？

阪上 はい。国立精神・神経センターという医療研究機関が萩山駅の向こうにあつて、その当時はまだ国立武蔵野養護所と言ったんですが、そこで研修を始めました。実はそこで音楽療法に出会ったんです。広い武蔵野の雑木林の中に三、四階建ての病棟が点在していて、奥のほうに作業療法棟という建物があつて、統合失調症の患者さんと二人で近づいていいたら、何か音楽が聞こえてきたんです。音楽が好きでしたから入ってみると、患者さんと一緒に音楽をやっている人がいたんです。それが丹野修一先生※。先生が患者さん数名と合奏をしていて、それが実にきれいな音楽だったんです。ちよつと考えられないくらい。それから

毎週水曜の午前に、そのセッションに行くようになったんです。器楽クラブという、作業療法の中の患者さんのクラブで、そこで初めて音楽療法というものがあるのを知って、少し勉強もしてみました。

——研修医だった一九八三年頃、音楽療法が精神科に取り入れられた？

阪上 もう少し前からですが、まだ少なかったと思います。丹野先生自身は以前からやっていたわけで、本当の日本の草分けだったと思います。武蔵病院の作業療法医長が芸大に行つて「誰か患者さんと音楽をやってくれる人いませんか」と言ったら、チェロを弾いていてまだ若かった丹野先生が手を上げて、患者さんと試行錯誤で音楽を始めたらしいんです。それが形になってから僕が入つていったわけですが。丹野先生が偉かったのは、患者さんが技術的に拙くても、その患者さんの出来ることを取り入れながら、音楽が全体として美しくなるように、パート譜をそれぞれ削つちゃうんですね。だから、二音の反復をぎこちなく弾く人がいれば、それを例えば水の雫に見たてて、そうしたらそんなにリズムミカルでなくてもいい。そういうことで曲を創る先生は本当にすごい才能だと思ふ。

ウィーンに留学

——先生、ウィーンに行かれたのは？

阪上 精神病理学と芸術療法の勉強をしようと思ひ、その方面で有名な自治医大精神科に入学しました。医者になってから三年目です。そこで臨床を重ねながら音楽療法の勉強をしているうちに、ウィーンで精神科の患者さんに対して音楽療法をやっているという文献に出会った。そうしたらオーストリアの政府給費留学生の募集が来て、試験に運良く受かったものですからウィーンに行つて音楽療法を勉強しようということになった。籍はウィーン大学医学部の精神医学教室に置きながら、提携している国立ウィーン音楽演劇大学音楽療法科の聴講生になれたわけです。

——両方を勉強されたのですか。

阪上 もちろん両方を勉強したんですけれども、僕は音楽療法を勉強したかったから、もっぱら音大のほうに入り浸っていました。音大の学生さんと一緒に音楽療法の授業に出て、あるいは即興演奏の授業を音大でやつて、あとは実習。市内にいろんな病院・施設があつて、学生が実習に行くんです。それについて行ってセッションを

やったり、ウイーン大学の精神科の病棟で朝早くからセッションに出たりとか、していました。そうしたら、日本では考えられないくらい精神医学的な、心理療法的な音楽療法がドイツ語圏では盛んだということが分かったんです。驚きましたね。こんなに進んでいたのかと思つて。フロイトが活躍した街ですから、ウイーン大学の精神科病棟には深層心理学研究所が附属していて、その研究所と音大の音楽療法科が組んでいっています。音大の教授がウイーン大学まで行って、そこでセッションをやっている。土地柄、心理学や心理療法が発展しているということもあつたと思うんです。無意識的なものを音楽でどんどん引き出していく。自由即興を使うんですね。出来あいの既成曲を使うのではなくて、完全な、自由な即興を皆で行うんです。ただ、対象者が基本的に神経症や心身症という、精神病圏よりも軽い病態に対する音楽療法でした。だから、僕が武蔵病院で診ていた統合失調症に対するような方法ではなかった。でも、日本ではむしろお年寄りや子どもに対する音楽療法が主流だったわけですから、あちらで精神科の患者さんを対象とする方法が本流と

して発展していることを知って、精神科医としてはとても喜んで。

神経症の皆さんにやるような自由即興で、打楽器をたくさん使うやり方を日本で統合失調症に応用しても、面白い発展があるんじゃないかということは、僕も感じながら帰ってきました。

美的な音楽空間

——療状が重い方たちに興味を？

阪上 そうです。私は統合失調症の病態に非常に惹かれるのです。一つには病理が奥深くて興味深いんですね。でもそれ以上に、統合失調症の人たちがとてもいい人たちなんです。本当に裏表がなく身体で動いている人たちで、音楽と接点があるというか、交錯するような特徴があるんでしょうね。嘘がないというのかな。

統合失調症の音楽療法はいかに美的な体験を共有するかとということが非常に重要になってくるわけですね。とくに重い人の場合は話の意味が通じなかったり、感情的なやり取りが難しかったりするところ。ところが、彼らの芸術的な感性はものすごいし、こちらが音楽で技術的・感性的に歩み寄ってあげれば、彼らもそこに来ますから、そうしながら美的な音楽空間さえ立ち上

げられれば、そこで出会いが成し遂げられるわけです。決して容易なことではありませんが、それがやはり大きな体験だと思います。

また、統合失調症の人には認知的な障害もありますから、楽器を演奏することが自然に認知を正すトレーニングにもなっているわけです。さらに言えば、厳しい音楽と一緒にいうことで、何だか戦友のような親しみが湧いてきますから、友だちを作り

にくかったり、互いに関心を持たない患者さん同士が仲良くなったり、連れだつてコンサートに出かけたりということも起こるわけです。つまりいろいろいいことがあるわけですが、やはり一番重要なのは、美的な体験を共有出来るということではないでしょうか。引きこもっている人たちが、セッションにやってくるだけでも大変なことなんです。でも活動に魅力があるから、美的なことが起こるから彼らはやって来る。それで、認知のトレーニングも行えるし、仲良くなつて社会的にも改善する。音楽がなければ普通そういうことは一切ないわけです。ですから、やっぱり治療の核心にあるのは、美的な音楽空間の立ち上

げですね。そしてそれをいかに成し遂げるかが音楽療法士の腕になるわけです。

セッションにどんな音楽的素人のクライアント、患者さんが来ても、音楽療法士によって、そこに独特で美的な音楽空間が出現する。そこでは健常者も病気の人もありません。そういう他に代えがたい体験の創造が本当に大事だと思います。

音楽療法士に向く人は？

——音楽療法士に向き不向きは？

阪上 難しい質問ですけど、音楽療法というのは、非常にいろんな領域があるわけですね。対象者も非常に多様なわけです。そうすると、それぞれに向いている人がいるんです。だから、一概にこの人は音楽療法士に向いていないと言ふことは出来ないの、いろんな個性を受け入れる領域だとは思ふ。自らの問題に振り回されている人は別ですが、かなり広い範囲のパーソナリティを受け入れる余地はあると思うんです。

—— 医的アプローチを持っていないくて
もやっつけてあげよう。

阪上 これもちよつと難しいところがあつて、音楽づくりが最終目的であつて障害や症状の軽減はそ

Parlando Interview

の二次的な結果だという考え方もあるんです。そういう考えに立てば音楽療法士は音楽家であることが第一義的となります。僕もそれに共感しますが、しかし理想的に言えば、音楽療法士というのは心理療法士でもあり、あるいは医学的な方法をとるのであれば医学的な知識もあり、かつ音楽も出来という、両方ができないといけない人たちだと思います。単発の音楽活動ではなく継続的にセッションをやらせていけるのは、両方をちゃんと勉強した人でしょう。だからこの大学の学生にも、心理学や医学的な知識は身につけさせるように指導しています。

勉強を続けるというのは音楽療法士の職業倫理なんです。だから、セッションをやっているとしても、スーパービジョンを受けるわけですね。自分のセッションについて、自分一人でやっても迷うことがあるし、困るでしょ。そうした場合必ずスーパーバイザーという熟練の先輩を見つけて、自分のセッションについて相談する。そうしながら勉強を続けていくということですね。

——経験も積み、自分のレベルも上げていくことを求められぬ。
阪上 そういうことです。出来れば

ば研究もしてほしいですね。研究をすると、自分の臨床も変わりますから。

——最後に学生さんたちへ。

阪上 僕が思うのは、希望をもつというか、何かを望んでほしいということなんです。望まない可能性はゼロですからね。何かを望んでほしい。これを勉強したいとか、こうなりたいとか。そうすると、意外とチャンスつてあるんです。

それともう一つは、自分の可能性をこのくらいだと見積つてしまわないほうがいいと思います。まだ若いし、何かを成し遂げる時間は十分あるのだから、自分の可能性を信じてほしいと思います。あとは、僕は医学から入ってきた人間なので、音大の学生さんについては、音楽が出来て本当に羨ましいと思いますよ。音楽の可能性というのか、音楽の人間に対する効果、良好な作用、そういうことをずっと研究してきた者としては、音楽が出来るんだから、どんな形であれ音楽をうまく使って社会に役立ててほしいなと思います。音楽という素晴らしい芸術の専門家なので、誇りを持ってほしいですね。

——音楽療法について奥が深いことをしみじみ思いました。(笑)

阪上先生おすすめの資料

図書

『音楽する精神——人はなぜ音楽を聴くのか?』アンソニー・ストーリー著 白揚社 1994 請求記号●C59-212
イギリスの精神医学者・著述家による卓抜な音楽論。人間と音楽の根源的な関わりについて医学・生物学から社会学、哲学にいたる幅広い視野のもとで論究し、とても刺激的。

『響きの器』多田・フォン・トゥビッケル・房代著 人間と歴史社 2000 請求記号●C65-012

日本の音大を卒業しドイツで音楽療法士となった著者が、彼の地での生活や音楽療法士としての経験などを生々しく新鮮なことはで綴る。独特で鋭敏な感性に驚かされる。

『千年の愉楽』中上健次著 河出文庫 1992 *当館未所蔵につきTACをご利用下さい。

私の好きな小説の一つ。熊野の「路地」に荒くれ者たちが生まれ、若くして死んでいく。その生と死に烈しくも哀切な音楽が聴こえてくる。

DVD

『ジル・ドゥルーズの「アベセーブル」 國分功一郎(監修) KADOKAWA/角川学芸出版 2015 *当館未所蔵につきTACをご利用下さい。

フランスの哲学者が遺した7時間半に及ぶインタビュー映像。人柄に直接触れつつ難解な哲学が平易に語られるのを見てると元気が出てくるから不思議。

阪上先生

著作集(訳・共著含む)

- *「精神の病いと音楽：スキゾフレニア・生命・自然」廣済堂出版 2003 請求記号●J100-767 シラバス/阪上正巳/5
- *「芸術療法実践講座4 音楽療法」飯森真喜雄共編 岩崎学術出版社 2004 請求記号●J108-271 シラバス/阪上正巳/1
- *「音楽療法事典 新訂版」ハンス＝ヘルムート・デッカー＝フォイクト他編著 阪上正巳他訳 人間と歴史社 2004 請求記号●X-084/O
- *「音楽療法の現在」国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編著 人間と歴史社 2007 請求記号●J111-162,163 シラバス/阪上正巳/8
- *「文化中心音楽療法」ブリュンユルフ・ステューゲ著 井上勢津他共著 音楽之友社 2008 請求記号●シラバス/阪上正巳/9
- *「音楽療法と精神医学」人間と歴史社 2015 請求記号●シラバス/阪上正巳/6
- *「ケースに学ぶ音楽療法 上・下」岡崎香奈共編 岩崎学術出版社 2016 発注中

生誕100年／没後20年

柴田南雄さん

小関 康幸

皆さんは柴田南雄（しばた・みなお）さんという作曲家をご存知でしょうか。主に戦後、多くの作品と著作を世に出された方で、1916年に生まれ1996年に亡くなりました。1995年に自叙伝が出版されていますので、それを繙いてみましょう。

東京女子高等師範学校附属幼稚園（現在のお茶の水女子大学附属幼稚園）に通った思い出が綴られています。そこで習った唱歌を後年調べると、大半が東基吉・東くめ編『幼稚園唱歌』にあつたそうです。いまでも歌われる『お正月』なども歌つたのでしょうか。小学校に入学した1923年に関東大震災に遭い、その翌年、蓄音機が家に備えられてレコードを聴くことが始まり、同時期に開始されたラジオ放送も聴くようになりました。中学の途中で自由な校風の私立学校へ転校、ピアノとチェロを学び、合唱にも親しむようになりました。

大学に進学した後も合唱団に加わり、ローゼンストック指揮新交響楽団（現在のNHK交響楽団）とヴェルディの『レクイエム』やシューベルトの『ミサ曲第6番』などを演奏しました。ローゼン

ストックはドビュッシー、ラヴェル、ストラヴィンスキー、マーラー、バルトークらの作品も採り上げましたから、著者の音楽体験と日本における洋楽受容の一端が重なり合った回顧の一例といえるでしょう。また戦時中、1年にわたって毎週日曜日、神学校のミサにグレゴリウス聖歌を聴きに通った経験が書かれていたり、作曲を師事した諸井三郎氏についても1章が充てられています。

戦後、1946年に著者は入野義朗氏らと作曲家グループ「新声会」を結成しました。1950年前後になると世界の様々な分野で新しい文化が生まれ、西ドイツのダルムシュタットで開催されていた「新音楽のための国際夏期講習」の存在を知ることになります。そして日本で「20世紀音楽研究所」を起ち上げ、現代音楽祭を行う活動に参画しました。その時期は著者自身の音楽観・音楽史観が形成されつつあった頃で、音楽様式の研究を小論文として発表する仕事が始まりました。作曲と並ぶ重要な仕事の分野となります。

ほかに、1947年から放送で音楽の解説を始めたり、子供のための音楽教室（のちに桐朋学園大

学音楽科）を皮切りに、お茶の水女子大学、東京芸術大学、東京大学などいくつかの大学で教壇にも立ちました。さらに新聞や雑誌に音楽評論を執筆するなど多岐にわたる活躍をされています。

1970年から東大寺修二会（お水取り）の取材を始め、日本民謡の基礎理論の研究を含む「音楽の骸骨のはなし」を雑誌に連載し、1973年にその成果は『追分節考』という合唱作品に結実しました。本書は1991年頃までを回顧していますから、学生の皆さんが生まれる少し前から100年ほど前までが回顧される期間です。しかも著者の音楽的経歴の背後に、西洋の音楽史と日本における洋楽受容史が透けて見えるような叙述が試みられています。

本書の特に後半で示される著者の視野の広さや思考の柔軟さは、すでに先の叙述の枠組みを超えているように思えるほどで、とても興味深く読むことができました。

紹介する資料

● 柴田南雄 『わが音楽わが人生』

岩波書店、1995（請求記号●

C60-382）

資料の館28

Bravo! ゲームミュージック!

二塚 恵里

「ゲーム音楽」って何でしょう？

ゲームで流れている音楽？——確かにそうですが、「映画音楽」が映画以外の場面でも使われるように、ゲーム音楽をゲームの外で耳にする機会もどんどん増えています。TVやラジオで特集されたり、CMで流れたり、フィギュアスケートで使われたり、コンサートで演奏されたり…。

ゲーム音楽を題材にしたオーケストラ等のコンサートは、全国各地で年間100回を数えるほどに開催され、本学の教員や卒業生の方々もたくさん出演されています。

そして実は図書館にも、資料がこんなにありました。

網羅的に収集されているジャンルではありませんが、思わぬお宝が見つかるかもしれません。

和書

ゲーム・ミュージック大事典	C57-271他
ゲーム音楽	C63-788
そうだ、ゲームミュージックを聴こう!	J96-944
プロフェッショナルゲームサウンド制作ガイド	J104-924
ゲーム音楽の作り方	J114-164
ゲーム音楽史	J127-054
ゲーム音楽大全	J130-706

楽譜



ファイナルファンタジーシリーズ

アカペラで歌う ファイナルファンタジー	F27-375
ファイナルファンタジーⅣ [ピアノ]	G23-608
エレクトーンでひくファイナルファンタジーⅣ	G23-883
ファイナルファンタジータクティクス [ピアノ]	G27-105
ファイナルファンタジーⅨ [ピアノ]	G28-583
ファイナルファンタジー・スーパーベスト [ピアノ]	G28-848
ファイナルファンタジーⅩ [ピアノ]	G29-026
ファイナルファンタジー ベスト・アルバム [ピアノ]	G29-595
ファイナルファンタジーⅩ-2 [ピアノ]	G29-649
オルゴール風アレンジで弾くファイナルファンタジー [ピアノ]	G29-809
ファイナルファンタジー [ピアノ連弾]	G29-871
ファイナルファンタジーⅩ-2 [ピアノ]	G30-188
ファイナルファンタジーⅠ・Ⅱ [ピアノ]	G30-400
ピアノコレクションズ ファイナルファンタジーⅩ	G30-575
ファイナルファンタジーⅩⅢ [ピアノ]	G32-488
ピアノ・オペラ ファイナルファンタジーⅠ/Ⅱ/Ⅲ	G33-394他
ピアノ・オペラ ファイナルファンタジーⅣ/Ⅴ/Ⅵ	G33-594
ピアノ・コレクションズ ファイナルファンタジーⅩⅡ	G33-641
ファイナルファンタジーⅩⅣ [ピアノ]	G34-201



ドラゴンクエストシリーズ

ドラゴンクエストⅤ [ピアノ他]	G24-240
ピアノでひくドラゴンクエストⅤ	G24-541
エレクトーンでひくドラゴンクエストⅥ	G26-317
エレクトーンでひくDragon QuestⅠ～Ⅵ Best	G26-827
ドラゴンクエストⅤ [ピアノ]	G30-299
ドラゴンクエストⅧ [ピアノ]	G30-449
ドラゴンクエストⅣ [ピアノ]	G31-876
ドラゴンクエストⅣ [オーケストラ]	H39-088



その他

イースピアノ・コレクション	G25-097
アンリミテッド：サガ [ピアノ]	G29-571
スーパーマリオサンシャイン [ピアノ]	G29-892
スーパーマリオシリーズ [ピアノ]	G32-609
聖剣伝説 [ピアノ]	G34-325
Partitura originale di Xenosaga. Episodio uno [オーケストラ]	H42-462

CD



ファイナルファンタジーシリーズ

ファイナルファンタジーⅣ [オリジナル]	XD14154
ピアノ・コレクションズ ファイナルファンタジーⅩ	XD55874
Final fantasy VII [オリジナル]	XD56766/-56769
ピアノ・コレクションズ ファイナルファンタジーⅦⅡ	XD56770
Bra★bra Final fantasy [吹奏楽]	XD72252
Bra★bra Final fantasy. 2 [吹奏楽]	XD72253



ドラゴンクエストシリーズ

ドラゴンクエスト [オーケストラ他]	XD5869
ドラゴンクエストⅡ [オーケストラ他]	XD5870
ドラゴンクエストⅢ [オーケストラ他]	XD5871
ドラゴンクエストⅣ [オーケストラ他]	XD9078/-9079
ドラゴンクエストⅤ [オーケストラ他]	XD18462/-18463
ドラゴンクエストⅤ [エレクトーン]	XD22162
ドラゴンクエストⅨ [オーケストラ]	XD64381



その他

ゲーム音楽コンサート [オーケストラ]	XD22331
オーケストラによるゲーム音楽コンサート 5	XD37774
ゲーム音楽作品集 [シンセサイザー]	XD22243/-22244
Nintendo super famicom game music [オリジナル他]	XD22302
Famicom music [アレンジ]	XD22304
ファミコン 20th Anniversary、オリジナル・サウンド・トラックス. Vol. 1	XD63191
ザ・ベスト・オブ・光栄. Vol. 1 [アレンジ]	XD22348
ザ・ベスト・オブ・光栄. Vol. 2 [アレンジ]	XD22355
ザ・ベスト・オブ・光栄. Vol. 3 [アレンジ]	XD22230
マザー [オリジナル]	XD10580
Music from Bomberman [オリジナル他]	XD22322
Super Bomberman 3 [オリジナル]	XD32726
桃太郎電番 [アレンジ]	XD22323
Momotaro-Denchiku II [オーケストラ]	XD22349
Elfaria suite [吹奏楽他]	XD30660
天外魔境ZERO [リミックス他]	XD33553/-33555
Xenosaga Episode I [オリジナル他]	XD55872/-55873
Creid [アレンジ]	XD56171
Mario the music [オリジナル]	XD56298
ロックマンエグゼ トランスミッション [オリジナル]	XD69689
I.Q final [オリジナル]	XD70770

OPACでの探し方

件名 フレーズ

件名に「game」と入力して「フレーズ」を選んで検索。楽譜とCDはこれで探せます。ただし、図書は出てこないものもあるので、タイトルに「ゲーム 音楽」「ゲーム ミュージック」などを入力し、「フレーズ」で検索してみてください。

雑誌の部屋

13

「雑誌の部屋」は、当館が所蔵しているたくさんの雑誌を、もっとみなさんに手にとっていただけるよう紹介するコーナーです。

今回ご紹介する雑誌は音楽専門ではありません。地域に根差したピンポイントなもの、時々音楽特集がある創刊間もないもの、歴史の長い生活実用雑誌など異なる視点を選んでみました。音楽を離れた生活の場で、役に立つ雑誌になることを願っています。

『たまら・び』

発行/けやき出版 季刊



請求番号●P5405

地方から上京された学生さんは多摩周辺に暮らしている方も多いでしょう。

タイトル通り多摩地区の紹介雑誌です。通り過ぎる駅や町がいったいどんなところなのか、知りたくありませんか？自分の住んでいる市が紹介されたら手に取ってみてください。住んでいるのに知らないことがたくさん。何年か経つとまた同じ市が紹介されますが、すっかり様子が変わっている！変化の激しい多摩地区です。

『考える人』

発行/新潮社 季刊



請求番号●P5620

平成14年7月にplain living & high thinking (シンプルな暮らし、自分の頭で考える力)を理念に掲げて創刊。創刊編集長の松家仁之さんは「一人の「わたし」に戻り、自分の言葉と生活を取り戻したい」そんな読者に送る雑誌と述べられています。

時々音楽特集があり、最近では2014年の秋号が「オーケストラをつくろう」というテーマでした。

『暮らしの手帖』

発行/暮らしの手帖社 隔月刊



請求記号●P960

戦後すぐに創刊された生活実用雑誌です。今年4月からのNHK朝ドラの主人公は、「暮らしの手帖」創業者の大橋鎮子さんですが、皆さんは見ている時間はないかしらん。

初めて雑誌名を知り興味を持った方もいることでしょう。若い学生さんには大人の生活雑誌の感がありますが、少し背伸びしてみてくださいはいかが？

※「どれか 一つ二つは すぐ今日 あなたの暮らしに役立ち せめて どれか もう一つ二つは すぐには役に立たないように見えても やがてこころの底ふかく沈んで いつか あなたの暮らし方を変えてしまう そんなふうな これは あなたの暮らしの手帖」
(見返しより引用)

館長室へようこそ②②

自分の価値観は絶対か

図書館長 古川 聡

ある日の授業で、学生に次のような課題を出した。「家族のつながり」「友情」「生きがいとなるもの」「将来の夢」「他人に迷惑をかけない社会性」「日々の喜び」の六つについて、自分にとって生きる上で大切なものから順位をつけ、その理由を簡単に書きなさい。それが終わったら、今度は六人ほどのグループでしっかりと討議し、グループとしての統一見解を出しなさいというものであった。

学生に課すからには自分でも考えなければならぬ。家族のつながりは大事だ。友情があるから大切な仲間もできる。些細なものであっても生きがいがあるから今日の私がある。この歳になつたものの、多少なりとも将来の夢はある。もちろん他人に迷惑をかけるのはもつてのほか。日々の喜びがあればこそ、こうして仕事が続けられる。さて、順位などつけられるものと自分でも迷つてしまう。

ドイツのシュプランガーは、『生の諸形式』という著書の中で、人間の個性の類型として次の六つを挙げている。物事を客観的に見て論理的な知識体系を追求することを重視する理論型、美しいものが最高だと考える審美型、物事の経済性を重視する経済型、神への奉仕を最優先させる宗教型、権力を求め他者を支配しようとする権力型、人間を愛して協調して生きていこうとする社会型である。何に価値を見いだすかも、その人らしさだと言うのである。

先の課題で自分なりに順位をつけたものの、集団で統一見解を出すとなると難しい。中には順位の数を合計して数学的に決めようとする者もいれば、すぐに自分の考えを引っ返して迎合してしまう者もいる。論議している姿を見ると、その学生らしさが見えてくる。自分では当然だと思っていたものが必ずしもそうではないことに気づく。でも、その中で自分の思いも反映させたい。さて、どうする。

図書館のう・ご・き..... 耐震改修工事報告⑦

◇いよいよ芸術祭明けに2階メインフロアがオープンします！

現在、図書館の耐震改修工事は急ピッチで進んでいます。順調にいけば、10月中に工事引越しが終了し、いよいよ芸術祭明けに2階のメインフロアがオープンします！

2階には広いメインカウンターと2つの大きな閲覧スペースが誕生します。一つは、入館ゲートから続く吹き抜けとグランドピアノのあるスペース。雑誌や音楽マンガのコーナーはこのスペースに設置します。また、資料を紹介する展示や、ピアノを使ったレクチャーやイベントなども実施していきます。読書や勉強はもちろん、アンサンブルの相談、待ち合わせなどいろいろな使い方をどうぞ。

もう一つは、開架図書の本棚を置いた学習スペース。ここはシラバス本のほか、教職やキャリア、語学に関するコーナーを作り、たくさんの図書が並び予定です。新着図書も、いつでも手にとれるようこのスペースで紹介していきます。パソコン席も含め、約60の座席を用意しますので、座席不足も解消されます。

これから3フロアとなる図書館。全フロアのリニューアルオープン、どうぞお楽しみに!!!

図書／CD

打楽器アンサンブルの魅力

演奏学科弦管打楽器専修（打楽器）4年

松平珠美

四年前に国立音楽大学に入学し、打楽器科の一員になった私に、初めて渡された曲が、これから紹介するE.Varèse作曲の《Ionisation》だった。毎年五月に講堂小ホールにて行わせて頂いている学内演奏会の幕開けの曲ともなっている。人数にもよるが、一年生主体となつて約一ヶ月で曲をつくりあげなければならぬ。

しかし、Varèseの世界観を表現するのは非常に難しい。大学生生活も四年目を迎え、さまざまな音楽と向き合っていくうちに、楽曲について理解する大切さを感じるようになった。

今回紹介する『The New Worlds of Edgard Varèse』には《Ionisation》を理解する上で重要な内容が詰め込まれている。洋書である為、手に取りにくいと感じるかも

しれないが、図での説明も多くあり、視覚的にも理解しやすい資料である。

《Ionisation》は世界最初の打楽器アンサンブル曲であり、体鳴楽器、膜鳴楽器、弦鳴楽器、電鳴楽器など、様々な楽器を使用する。

その中でも最も特殊な楽器はサイレンだろう。楽器として扱うこと自体が珍しいと考えられるが、この二つの電子音が所要所に散りばめられている。Varèseはサイレンの音程にこだわり、高音と低音それぞれのピッチを求めている為、二台のサイレンが指定されたのだ。

全体は五つのまとまりになっており、その中にさらに細かな構成がある。リズムに関しても、どのように噛み合わさっているのかや、どのパートに受け渡すのか、一つ

のリズムが次に出てくるリズムにどのような影響を与えているのかなどが細かく記載されている。様々なリズムがどのような関係性になっているのかを理解する事で、この曲らしさを表現できるのではないだろうか。

一つ一つの楽器の音を追求する事は最も大切なことであると感じているが、これだけ緻密な構成でつくられている以上、ただリズムを並べるだけでは、Varèseの音楽を表現する事はできない。奏者はいかに正確なリズムをとり、それらを合わせていくのか。その点において本書はとても有効な題材である。

ここで、もう一点紹介させて頂きたい。パーカッショングループである、ストラスブルの演奏が

収録されているCDである。高いアンサンブル力で個々の楽器の特徴を活かした演奏の《Ionisation》をはじめ、J.CageやC.Chavezなど、現代音楽を学ぶ上で重要な作曲家の作品が多く取り上げられている。

今まで大学生活の中で、アンサンブルという分野において特に多くの経験をしてきた。国立音楽大学は、打楽器アンサンブルに約五十年の歴史をもち、今日まで積み上げてきた。秋に行われる定期演奏会では、現代音楽や、委嘱作品の演奏など挑戦的なプログラムに取り組んできた。その中でアンサンブルをする楽しさや難しさを感じながら、そこから学んだことが少しずつ身に付き、それらが今の自分に大きな力になっていると感じる。



図書

請求記号●C29-156 p.ii:
"Varèse in his studio, about 1960."



CD

請求記号●XD1564

CD

交響曲第八番と

フルトヴェングラー

演奏学科弦管打楽器専修(トランペット) 3年

丸谷徹

僕の母はコーヒー好きである。或いは、本当に好きなのはカフェインなのかもしれないが……。まあ、毎月コーヒーを買って来ては、毎朝飲んでるのだ。

僕が小さい頃、今と同じように母は毎朝それを飲んでいたわけだが、ある日、母が買って来たものにオマケ様のCDが付属していた。CDの内容は、ほとんど覚えていないが、確かドボルジャークの交響曲第九番《新世界》の四楽章とメンデルスゾーンの《イタリア》の一楽章だった気がする。

僕はそれをよく遊びながら聞いていたらしい。確かに、活発な子どもの興味を引くには十分わかりやすい曲である。冒頭のメロディーをよく口ずさんだものだ。

こんなことを書くと、「小さい頃

から、クラシック音楽を聴いていて偉いねえ」などと思われるかもしれないが、別にその後、ずっとクラシック音楽を聴いていたわけではないし、寧ろほとんど聴いていなかったと言っても過言ではないのである。小学生や中学生の頃の僕は、音楽を聴くには忙しすぎたのだ。その頃は、友達との約束が生活の中心だったのである。

高校の頃は、音楽を聴くようにはなつたものの、時々ドビュッシーのピアノ曲やラフマニノフのピアノコンチェルトにはまる程度で、あとはずっとジャズを聴いていた。僕がクラシック音楽を本格的に聴き始めたのは、大学に入ってからだった。

大学に入ってから、ある先輩と飲み席で親しくなり、その時に

色々な音楽の話をしてもらったのがきっかけで、より多くのクラシック音楽を聴くようになった。その先輩は多くの音楽や音楽家に精通していた。そんな先輩が僕によく話してくれたのは、ベートーヴェンの交響曲についてだった。家に行くとき様々な指揮者のベートーヴェン演奏を聴かせてくれた。

そして、その先輩が最も好きな指揮者の一人によく挙げていたのは、フルトヴェングラーだった。僕は気になって、図書館でいくつかのベートーヴェン以外の音源を借り、家に持ち帰って何度も繰り返し聴いた。

フルトヴェングラーの演奏は、常に完璧なほどの説得力と音楽を備えていた。それは遠くから俯瞰しても、近くで目を凝らしても一貫していた。時に音のない箇所ですら、それが曲中であれば、無音のなかで音楽をしていたのだ。

話は変わるが、個人的にベートーヴェンの交響曲の中で、一番好きなのは、第八番だ。何故なら短い曲で聴きやすい上に、古典的な面白さと、彼特有の奇知に富んでいるからである。それに全楽章

長調であるから、とても明るい。オーケストラが、終始微笑みながら、音楽で対話しているのを聴くと、元気がでてくる。

ちなみに、ベートーヴェンは交響曲全九曲の中で、この八番だけは誰にも献呈していないらしい。誰のために作ったわけでもなく、彼が、純粹な創作意欲に駆られて作った曲ということだろうか。

もしそうだとしたら、この曲を聴くたびに感じる温かさは、彼の音楽へのけがれのない愛情から来ているのかもしれない。

そんな第八番の感動を、いつも伝えてくれるのが、フルトヴェングラーなのである。



Symphonie no. 8 F-Dur ;
Symphonie no. 7 A-Dur /
Beethoven. Orfeo, p1992.
(Festspieldokumente). C 293
921 B 請求記号●XD32016

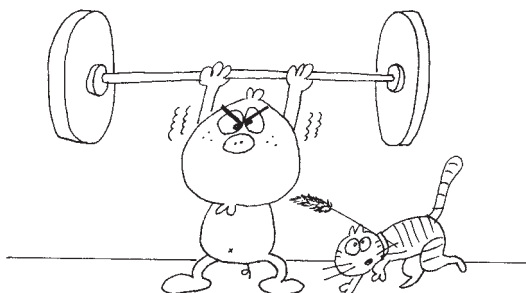
Information

夏休み前に借りた資料の返却

7月以降に借りた資料は、もう返しましたか？返却期限は9月17日(土)です。忘れずに早めに返却しましょう。

資料の返却前に確認を

「パート譜が不足」「CDや解説書が入っていないかった」などのトラブルがしばしば見られます。これらの場合、返却処理ができませんので、返却前には今一度資料が揃っているか確認をお願いいたします。また、借りた際に資料の状態に不自然な点がありましたら、返却カウンターまでお知らせください。



資料の水濡れに注意

返却された本や楽譜、CDケースが水で濡れていることがあります。雨に濡れたり、ペットボトルの水滴が付くというのが、主な理由のようです。資料を傷める原因になりますので、袋に入れる、ペットボトルと一緒に入れ物で持ち運ばないなど、資料が濡れない扱いをお願いします。

TAC便の開始は

9月7日(水)から開始します。当館で所蔵していない資料でもTAC加盟館にある場合、TAC便を利用すれば当館資料と同じように利用できます。申込は総合受付カウンターで。

いよいよ今秋に図書館がフルオープンします！

リニューアル工事へのご協力ありがとうございました。まもなく工事が終わり、フルオープンを迎えます。オープンは11月7日(月)です。オープニング記念として、図書館ならではのさまざまなイベントを企画しています。また、2階のメインフロアには開架閲覧室ができ、手に取れる図書が大幅に増えます。オープン初日に来れば華々しいファンファーレが聴けるかもしれません。

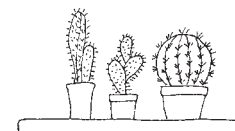
ガイダンス

6月28日(火) 神奈川県立弥栄高等学校 3年

※このガイダンスは高大接続・連携の一環として実施しました。

7月4日(月) 清水あずみ先生ゼミガイダンス (専門ゼミⅢ・リトミック・4年)

7月13日(水) 阪上正巳先生ゼミガイダンス (専門ゼミⅢ・音楽療法・4年)



Library Calendar

9

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

11

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

*2016年度より、書庫内資料の出库受付時間が変わりました。

	開館時間	書庫内資料受付(出库)
無印	開館 8:50-19:00	8:50-18:50 学外の方は18:00まで
●	開館 8:50-19:00 学内のみ	8:50-18:50 学内のみ
◇	開館 8:50-17:00	8:50-16:50
◆	開館 8:50-17:00 学内のみ	8:50-16:50 学内のみ
☆	土曜日 8:50-17:00	8:50-16:50 学外の方は12:30まで
★	土曜日 8:50-17:00 学内のみ	8:50-16:50 学内のみ
	閉館	どなたもご利用になれません。

*AV視聴卓・AV室A～Dのご利用は、閉館の10分前までです。
 *●◆☆は、学内者のみの開館日です。学外の方はご利用になれません。

♪長期閉館、臨時閉館、開館時間の変更などは、その都度、館内の掲示板、ホームページ等でもお知らせします。
 学事行事などにより、臨時閉館となる日もあります。必ず直前に確認してください。